

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375601016		
法人名	社会福祉法人嘉祥福祉会		
事業所名	グループホームあま恵寿荘		
所在地	愛知県あま市ニッ寺西高須賀2番地		
自己評価作成日	平成30年 9月25日	評価結果市町村受理日	平成31年 1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2375601016-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の中で“普通の生活”が継続して行ってもらえるよう、積極的に地域の方々との交流や地域行事に参加をしています。現在、市の敬老会への参加や福祉まつりへの作品展示は恒例となっています。また昨年から新たに地域の衣料品店による移動販売を企画し、今年も6月に開催することができ、半年に1回は行えるよう継続していくことも決まっています。その他には、月1回施設に慰問にきてくれる地域の音楽サークルが主催している地域の「音楽会」に、昨年につづき「あまケローズ」として入居者が歌を披露する等地域との交流を活発に行なっています。また、グループホームでの入浴が難しくなった方が併設施設の機械浴を使わせてもらったり、併設のデイサービスを利用中の妻と一緒に過ごす時間が持てるよう配慮できる等、複合施設の中にあるグループホームならではのサービスも特色の一つです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者がホーム・地域の中で自分らしく、自分の生活を継続できるようにと要望を聞き取り、実現していく個別支援が以前より増えてきている。利用者の生活歴を紐解き、午前は喫茶店で過ごす習慣のあった利用者が店主の誘いでまた喫茶店へ通い始めたり、また買い物をする、という行為を外出が難しい利用者にもできないかと職員発案で衣料品店による移動販売を実現している。ボランティアがきっかけで歌好きの利用者が音楽会に参加するなど新たな広がりを見せている。施設のホームページも整い、ブログ運営も家族に好評である。イベントの多さや設備の面等、複合施設の強みを存分に生かして利用者の思いを実現させているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	“その人らしさ”や“普通の生活”が施設へ入居したことで途切れることなく、出来る限りなじみの生活や関係が継続できるようにしている。その一つとして近所のなじみの喫茶店へ月に一回行くことで支援計画につなげている。	利用者一人ひとりの「その人らしさ」を発揮できる支援に努めている。今までの関係が途切れない様に地域の馴染みのところへ行く等、個別支援につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年、地域の音楽イベントにグループホームの入居者が合唱団として参加し、今年も参加し地域の方と交流をしている。また、近くの衣料店に移動販売をお願いし実現している。	職員の発案で市の高齢福祉課と協力して、衣料品をホーム内で展示販売する移動販売を実現している。利用者は品物を自分で選び買い物をする「普通の生活」を体験している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症やグループホームという施設を理解を深めてもらう為、福祉まつりに作品展示をしたり、地域の音楽イベントに出演をしている。生き生きと活動する入居者の方との交流で、より認知症の方への理解が進むよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の地域交流会の中で移動販売が行えるようなお店がないか、市の職員に相談し、いくつかのお店に声をかけてくださり、その中のお店による移動販売が実現した。	運営推進会議は適切な頻度で開催されている。地域代表、市職員、知見を有する者、地域包括支援センター職員、利用者代表、利用者家族が出席し、活発な意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から何かあればすぐ相談に乗ってもらえる関係にあり、市の行事に参加する際も参加のしやすいよう協力してくれている。また運営推進会議にも必ず参加をしてくれているので定期的に現状報告や相談ができる関係を築けている。	市や地域包括支援センター職員の運営推進会議への参加をはじめ、日頃から相談しやすい関係を築いている。地域の衣料品店が移動販売に施設を訪問しているが、市に相談を持ち掛け、実現に至っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体で委員会を設けて、毎月1回委員会に参加し、事例検討をおこなっている。また、内部研修を行い身体拘束についての理解を深められるよう努めている。	法人の身体拘束廃止委員会があり、グループホームの担当者も参加して職員と情報共有をしている。利用者への不適切な声掛けについても管理者が注意をして改善をしている。	職員が客観的に自分自身のケアの振り返りをする機会を作ることで、さらなる質の向上に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体の内部研修を行い、虐待についてどのような行為があるのかを学ぶ機会を必ず持つよう努めている。また不適切ケアについても内部研修の中で話しをし、虐待へと繋がらないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身元保証人からの申し出で成年後見制度を活用されている入居者の方はいるが、職員全体への制度理解には至っておらず研修の機会がまだまだ不足しているのが現状。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容は入居時に必ず口頭で説明をしながら、その都度疑問点がないかを確認し、十分説明をしている。また、契約書以外にも特に確認をしておきたいところをまとめ確認し、理解・納得してもらうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から面会時にはこちらから入居者の方の今の生活状況等話をして、意見や要望が言いやすい関係作り努めている。また、入居者の方は居室や入浴場等で1対1でじっくり話す機会を設けられるよう配慮している。	毎月の便り「福寿草」の他に個別で写真付きの通信を家族に送っている。またホームページ内にブログを載せており、家族の好評を得ている。ブログを見て家族からの質問や訪問も増えており嬉しい効果が上がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度ミーティングを設けて意見交換をし、できる限り各職員の意見が反映されるようにしている。また年に1回面談の機会を設けている。また、職員から意見の出た移動販売や音楽会への参加も実現し、継続している。	法人の全体会議前に職員から満遍なく意見を集めて運営に活かしている。職員発案の移動販売や音楽会の参加などグループホーム発信の提案が施設全体の楽しみになっている。	職員意見を反映してマニュアル作りを進めており、業務改善につながることに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回は面談を行っており、人員についてはその都度、管理者が上司への相談を行い、一緒に考えてくれる。職員については出来る限り得意としている仕事の割り振りをし、現在マニュアルについても見直しや作成を進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議内で、毎月内部研修を行なっている。外部研修への機会も昨年度よりは増えている。また、介護福祉士の実務者研修を法人で開校をし、資格取得のための環境も整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年1回、市内のグループホームの連絡会への参加をし、情報交換を行なっている。また昨年度「あま市グループホーム連絡協議会」が立ち上げられ、積極的な交流ができるよう協力していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際、荷物整理にご家族、本人と共に職員が話しを聞きながら行い、不安の軽減に努めている。また職員が間に入り、自己紹介をしたり、同性の入居者で自宅が近いと同じテーブル席にしたり配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の際、ホームでのケアについての要望やケアプランへの希望等を聞き、反映できるよう努めている。また、面会時には必ず話しをする時間を設け何かあれば電話を連絡する等、まめにホームでの様子を伝えられるよう気を付けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前に必ず自宅もしくは生活している場にて、本人・家族より今現在の様子を聞いている。デイサービス等を利用している際には、その事業所にて専門的な視点でケアの状況を聞き、どんなサービスが必要なのかを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理をする際には切り方を教えてもらったり、味をみてもらう等食事の準備を一緒にしたり、畑仕事を一緒に行い、野菜の植え方や支柱の立て方等を得意な入居者に聞きながら行って、生きがいを感じている方もみえる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	それぞれのご家族の出来る範囲で外出行事に一緒に参加してもらったり、面会時にトイレ介助を行ったり、作品作りを一緒に行なってもらうなど、積極的に関わっていただけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで毎日の習慣だった近所の喫茶店へ通う事が出来る限り継続できるよう、月1回は喫茶店を訪れ地域の方と交流できるようプランをたてたり、デイサービスを利用中の妻と一緒に過ごす時間が持てるよう配慮する等支援している。	馴染みのある喫茶店に毎月出掛けたり、畑の収穫に精を出す利用者がいる。自宅からデイサービスへ通う奥様と一緒にコーヒーを飲んだり顔を合わせる機会を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の座席を仲の良い入居者同士にするなどし、会話がしやすいよう配慮している。また洗濯物を置んだり、食事の準備をする等役割を一緒に行うことでそれぞれが他の入居者の心配をしたり世話を焼いたりして、支えあっている光景も見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設施設へ入居された家族と行事や面会時に会った際は、出来るだけ声を掛け、様子を聞き相談に乗る等している。また、なにかご家族から相談があればその都度話を聞き支援できることがあれば行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で入居者の方が、近所の喫茶店へ行きたいという話していたことから、ケアプランに毎月喫茶店へいく機会を作るよう組み込む等、出来る限り本人の気持ちを逃さぬようにしている。	日常生活の中で1対1で対話する時間を増やして、利用者の思いや意向を把握する様に努めている。聞き取った言葉や様子などはケース記録に記載して、介護計画作成に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にケアマネージャーやご家族より、今までの生活歴や暮らし方を聞き、本人との会話の中からも馴染みの関係や生活環境がどうであったか情報収集を得ている。以前利用していた介護サービスがあれば、そちらからも情報をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録の中に日課等でそれぞれ配慮する項目を記し、どの職員も把握できるよう努めている。また、ケース記録については時系列で毎日記入し、それぞれ一日の過ごし方が分かりやすいよう記入している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングとアセスメントを行い、その後関係職員にてカンファレンスを行い、見直しをしている。家族については面会時に出来る限り希望や要望を聞き、ケアプランの内容によっては家族にも支援者の一人となってもらうこともある。	毎月のモニタリングやアセスメントを全職員で行なっている。3ヶ月毎の見直し時にはサービス担当者会議を行ない、計画作成者や担当職員等が利用者や家族の要望を検討して介護計画を作成している。	利用者の意向を反映した介護計画づくりを進めている。今後は計画作成担当者を中心に家族の意見反映を充実させた計画づくりに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録はその日の出勤者はすべてその日の気づいたことを記入してもらうようにし、また毎日業務に入る前には目を通してもらっている。ただ日々の様子については記入されているが気づきが少ない現状はある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの浴槽で難しくなった方には併設施設の機械浴を使用し、継続してホーム利用できるよう工夫している。また合同で行事をおこなったり、デイサービス利用中の妻と会う機会を作る等、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の音楽会への参加を今年も行うことができ、「あまケローズ」としての活動が継続出来ている。また、福祉まつりや敬老会への参加も市の職員が協力してくれるため安心して参加が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居時に家族に希望は聞かすが、現在は全員が協力医の往診を月1回受けている。往診以外でも何かあれば電話等で連絡をとり、すぐに受診できる体制である。	協力医の月1回の往診がある。往診時には系列福祉施設の看護師が付き添い情報共有をしている。利用者や家族の安心だけでなく、職員の心強いバックアップにもなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護とは日頃からなにかあれば相談のできる関係であり、月に1回の往診時も必ず一緒についてもらいDrとのやり取りを行っている。ケース記録とは別に看護記録を記入してもらい情報共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関とは日頃から何かあればすぐ連絡をとり対応してもらえる協力体制は出来ている。入院時もケースワーカーとこまめに連絡を取ってムンテラにも参加している。他の病院での入院の際も出来るだけこまめに情報を聞くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に現在の家族の終末期の希望を聞き、グループホームで対応できること、出来ないことを説明し、理解してもらっている。また、重度化した場合も可能な限りホームで生活が可能なよう看護師や医師と相談し、その都度家族へ説明、希望をききその思いに添えるよう努めている。	入居時に重度化や終末期の対応について家族に説明をしているが、変化をしていく中でその都度、医師や看護師を含め話し合いを行っている。複合施設の強みを活かして利用者や家族の希望に沿うよう支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行われていないが、防災訓練時にけがの想定をし、応急処置の訓練を入れたり、内部研修にて事故発生時の対応についての研修を行ったりしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練については、複合施設全体で協力し、毎月それぞれ違った想定での避難訓練や、消火訓練等を行っている。昨年より風水害対策の避難訓練も行い、また毎年消防署との合同の総合防災訓練も行っている。	年1回消防署立会いの総合防災訓練の他、毎月想定を替えて避難訓練を行なっている。去年からは風水害の訓練も始めている。隣の企業と災害時の連携を取ったり、耳が不自由な利用者用のカードなどを作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定をするような言葉かけをしないよう気を付け、強制とならないよう疑問形で声を掛ける等している。また、居室へ訪室する際はノックをしたり声を掛ける等配慮し、洗濯物を片付ける際も本人に声掛けをしてから片付ける等気を付けている。	入社時に接遇やプライバシーについて研修を受けている。否定的な言葉は使わない、話をよく聞く、利用者に嫌な思いをさせない話題にするなど十分に注意して支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時の着替えの衣類を選ぶ際「これはどうですか、こちらは。」等選択肢を設けるような声掛けの工夫をし、本人に決定してもらえるようにしている。日頃の会話から本人が何を望んでいるのかケース等に記入し共有できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やおやつ以外の時間以外は特に決まった日課は設けず、入居者が好む塗り絵や縫い物等、それぞれに合ったレクリエーションを提供している。食事についても時間は決まっているその都度体調に合わせて個々で時間をずらすこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力で今まで行っていた美容室へ継続して行っている方もみえる。夏祭り等の行事の際には髪飾りを付けたり。化粧をしたりし、おしゃれを楽しめるようにしている。また外出時には普段着よりおしゃれな物を選ぶ等支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日月にはそれぞれ誕生日の方から食べたい物のリクエストを聞き提供している。また、おやつや行事食の材料を入居者と一緒に買い物へ行ったり、料理の手伝いや付けわけ、片付け等それぞれ出来ることを手伝ってもらっている。	盛り付けや台拭き等、利用者はできることを手伝っている。収穫した野菜や差し入れは一品として食卓にそえられている。誕生日やイベント食の楽しみもあり、流しそうめん機で作ったそうめんは大好評であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれ嚥下や咀嚼の状態に合わせて食事の形態を変えたり、体調の悪い時には粥で提供したり工夫している。また水分量が少ない人には水分摂取表を記入し、職員が気に掛け飲みやすい物を提供したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月、歯科衛生士の方に口腔ケアを行ってもらい、助言を受けている。助言や指示された内容を用紙にまとめ職員全体に周知徹底できるよう申し送っている。また、歯科医師とも気軽に相談ができる関係が築けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パッド内での排泄を防ぐため、排便がある時間帯を把握しその時間にトイレへ声掛けしている。また日中は布パンツにパッドをする等出来る限り不快感のないようおこなっている方もみえる。	自立の利用者が多いが、声掛けはこまめに行なっている。現状維持に努めており、排泄チェック表等でパターンを把握している。安眠や足のふらつきなど状態に合わせて夜間のみ数名がポータブルトイレを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をこまめに取りよう声掛けをしたり、腹部のマッサージを行ったりしている。また毎日朝は乳製品を提供する等工夫している。その他、出来る限り歩行する機会を設けて気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間は職員の配置都合上、決まった時間内になってしまうが、出来るかぎり毎日入浴したい、男性の後には入りたくない等の個々の要望に添った支援を行っている。	一日置きの入浴をしている。利用者に合わせて湯加減を見たり、おしゃべりや歌、好みのシャンプーを使う等、利用者個々の楽しみ方で入浴を支援している。着替えの準備など職員と一緒にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共有スペースにはソファを置き、そこに腰かけてうたた寝している方もみえる。食後は食堂の席でうたた寝されている方も多いため、居室での昼寝が出来るよう声掛け・配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬が追加される等変更があれば、その都度Nsや往診担当より説明をおこなっている。またその都度内服薬の効きはどうか、副作用がないか主治医に報告相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれ、洗濯物を干す方、畳む方、食事の付け回しを手伝う方等、役割を持って生活できるよう支援している。また、畑仕事を行っていた方にはホーム内の畑で野菜作りを行ってもらい、家族も苗を持ってきてくれるなど協力的である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昔馴染みの喫茶店への外出や、野菜作りの為の苗を買いに行く等、個別の希望に添った外出支援も少しずつ増えてきている。また喫茶店の方も外出に協力的で、近所の方を呼んで馴染みの方とお話できた。ご家族が馴染みの美容室に連れて行ってくれる等、家族も協力的である。	複合施設の敷地内での散歩や買い物、行事での外出が主であるが最近では個別支援が増えている。店主がコーヒーチケットを利用者に持ってきたことがきっかけで月1回馴染みの喫茶店通いを実現している。また家族と旅行をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自分で持ってみえる方も何人かはみえ、施設内の自販機で使用したりしている。本人が所持していない方も施設で現金を預かり、買い物支援等に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば公衆電話の使用や、携帯電話の使用が出来るよう支援している。手紙については現在はやり取りされている方はいないので今後年賀状等支援を考えていきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングには入居者が作った作品を飾り、個人のギャラリーコーナーも作っている方もみえる。また共有スペースには季節感が出るような飾りを入居者の方に作成してもらい飾っている。庭では季節の野菜を作り、食事で提供し季節を味わってもらっている。	リビング等には利用者と一緒に作った工作物や写真が飾られ、季節毎に飾り替えている。畑に買った苗を植える、花の水やり、洗濯物をたたむ、皆で使うおしぼりを作る等、利用者のペースで過ごせる支援をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の共有スペースにはソファが置いてあり、そのソファに腰かける事で落ち着かれる方もみえる。また食堂のテーブルの席については気の合った入居者同士で座れるよう席に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の習慣にしている化粧がしやすい化粧台となるものを用意したり、趣味の音楽が聴けるようオーディオが置いてある等工夫している。また本人が使いやすい寝具を使用してもらったり、移動がしやすいよう家具の配置に気を付けている。	慣れ親しんだ椅子や鏡、テレビ、日用品等を持ち込んでいる。居室で音楽を聴けるようにプレーヤーとCDを置いたり、毎日化粧ができるように化粧道具を揃えている。衣替えや家具配置等適宜家族と相談している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の途中にトイレの方向が分かるよう、目印を置いたり、居室前に分かりやすく名札を付けたり工夫している。居室には本人が動きやすく且つ安全に移動が出来るよう家族や本人と話し合い、家具の配置等決めている。		